

「悪性脳腫瘍におけるがん幹細胞マーカーと関連遺伝子の発現による病態の検討」に関してのお知らせ

大阪大学医学部脳神経外科では、「悪性脳腫瘍におけるがん幹細胞マーカーと関連遺伝子の発現による病態の検討」と題した臨床研究を行っています。

本研究実施に際して、お問い合わせや、患者さんもしくは患者さんの代理人の方により、臨床研究への参加についてご了承頂けない場合は、研究対象としませんので、以下連絡先までお申し出下さい。

【研究責任者】

藤本 康倫（脳神経外科 准教授）

【連絡先】

大阪大学医学部脳神経外科
大阪府吹田市山田丘 2-2
TEL: 06-6879-3652

【研究課題名】

悪性脳腫瘍におけるがん幹細胞マーカーと関連遺伝子の発現による病態の検討

【研究の対象となる患者さん】

- ① 平成 29 年 6 月 9 日以降に、当院において悪性脳腫瘍（原発性脳腫瘍及び転移性脳腫瘍）の手術を実施され、すでに本研究への参加に同意された患者さん
- ② 平成 7 年 1 月 1 日から本研究開始日（平成 29 年 6 月 9 日）までに、当院において悪性脳腫瘍（原発性脳腫瘍及び転移性脳腫瘍）の手術を実施された患者さんで、手術で摘出された腫瘍組織標本の残余および臨床情報の記録が残っている患者さん

【研究の目的、試料・情報の利用目的】

近年の研究の進歩により、脳腫瘍領域を含む様々ながん種でがん幹細胞の概念が定説化されています。本研究では、悪性脳腫瘍（原発性脳腫瘍及び転移性脳腫瘍）におけるがん幹細胞マーカーの発現を解析し、臨床情報、分子遺伝学的情報との相関性や、近年注目されている腫瘍組織内の免疫応答調整機能や転移性脳腫瘍の脳血液関門通過能などとの関連性を検討することを目的とします。

【研究の方法、試料・情報の利用方法】

患者さんの臨床情報や、手術で摘出され、臨床上必要な検査に使用した残余の腫瘍組織の一部をご提供いただき、研究に利用します。腫瘍組織に対して、病理学的・免疫組織学的検索や DNA や

RNA、たんぱく質の解析を行います。患者さんの臨床情報との関連について、統計学的解析を行います。

『グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とそれに基づくテーラーメイド治療法の開発』、『小児頭蓋内悪性腫瘍の遺伝子診断体制の構築 髄芽腫、上衣腫』の研究対象となった患者さんについては、これらの得られた情報、特に腫瘍組織のゲノム解析および染色体解析、遺伝子配列解析の情報を、本研究と紐付けし検討を行います。

この研究は平成 32 年 3 月 31 日まで行う予定です。

【研究に利用し、提供する試料・情報の項目】

（研究に用いる試料）

手術で摘出され、臨床上必要な検査に使用した残余の腫瘍組織

（新鮮腫瘍組織試料・凍結腫瘍組織試料・ホルマリン固定パラフィン包埋組織試料）

（研究に用いる情報の種類）

基本情報（年齢、生年月日、性別、腫瘍発生部位）

検体採取手術時の情報

治療内容、その後の経過

放射線診断結果（CT・MRI 画像、PET 画像等）

血液検査結果

病理診断結果

など

【個人情報等の取り扱い】

研究の対象となる試料や臨床情報から氏名等の特定の個人を識別することができることとなる記述等を削り、代わりに新しく符号又は番号をつけて匿名化を行います。研究対象者との符号（番号）を結びつけている対応表や、研究の際に使用する個人情報は外部の漏れないように厳重に保管されます。

【外部との試料・情報の受け渡し】

本研究では当院において実施できない解析について、下記の解析機関と資料・情報の受け渡しを行います。個人に関する情報が特定できないようにした上で（匿名化）、郵送・電子的配信により受け渡しは行われ、対応表は当施設の研究責任者が保管・管理します。

・ Division of Neurosurgery, The Arthur and Sonia Labatt Brain Tumour Research Centre, and Developmental & Stem Cell Biology Program, Hospital for Sick Children, Toronto, ON, Canada, Department of Laboratory Medicine and Pathobiology, University of Toronto